

（動労争闘会全国大会方針）「国鉄35万人体制」粉碎！

# 大胆な妥協路線を粉碎せよ！

## 日刊 動労千葉

80.8.10  
全国版  
No. 62

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（電話）二九三五～六（公衆）〇三三（宅）二七二〇七

全国の動労組合員のみなさん。動労第三六回定期全国大会方針についての批判が全国で湧き上っています。前週の全国版No.61に続いて反合方針についての批判を展開したいと思います。

### 「三五万人体制」の本質を おしくす反動分子

方針案は「三五万人体制とは何か」ということについて明確にしています。明確にしていないうより、各パート毎に「三五万人体制」についての理解がバラバラで一貫性がなく、混乱しているといった方が当たっています。

例えば、「基調」の部分等では「三五万人体制」と「国鉄再建法」攻撃や「ローカル線切捨て」「乗務員運用合理化」「検修民託化」等があたかも別箇のものであるかのように並列に書かれています。

われわれは「三五万人体制」とは政府・国鉄当局が将来の国鉄を①全国新幹線網による旅客輸送②大都市圏通勤、通学輸送、③武操型貨物輸送、④のみに限定し、最終的に、全営業線区の半分にも当る九千キロを国鉄から切り離すということに基づいて据えた大合理化をもって、七万四千人の要員合理化で一九八五年までに国鉄職員を「三五万人」にし、同時に、そのことを通して国鉄労働運動を解体してゆくと、助士廃止を上回る恐るべき攻撃であるということを示すために闘ってきました。

つまり、「三五万人体制」攻撃とは、「再建法」をもってする「ローカル線廃止」「乗務員運用合理化」「検修民託化」等々の全てを含む合理化攻撃であることは明確なものです。

それぞれを別箇のものとしていたのでは真に闘う方針が構築できるはずがありません。「三五万人体制」を正しくとらえ、個々の合理化事業の位置付けを明確にした戦略、戦術に裏付けられた闘う方針を構築することが絶対に必要なのです。

### 「安定宣言」の総括を放棄 無責任な反動分子の本質

しかし、この方針案にはそのような視点が全くありません。

このことは「本部」反動分子の反合闘争路線が完全に破産してしまっていることを示しています。

これは、本格的貨物合理化の当局からする突破口としての武操合理化の本質を軽視し、「組織拡大」を口実に組合員を裏切って積極的に当局に協力

し、「五三・一〇」において「貨物安定宣言」を発してさらに合理化の先兵として純化した「本部」反動分子の本質なのです。

武操合理化への屈服と貨物安定宣言を正しく総括しないで「五五・一〇」を闘えるはずがありません。

方針案では「五五・一〇は五三・一〇に続く第二の節」「五三・一〇の教訓に踏えて闘う」となっています。しかし、「五三・一〇の教訓」とは何かということについては全く明らかにされていません。



明白な屈服  
と裏切り

「本部」反動分子は「安定宣言」というまじが

った路線をセクト的にゴリ押ししたが故に、「五三・一〇」をまともに総括することもできないのです。

「本部」反動分子はこのデタラメな「安定宣言」を「大胆な妥協」という言葉におきかえて誤った路線を居直り、「三五万人体制」攻撃に敗北することを前提に、職場と組合員の生活を当局に売り渡し、その代償に「三五万人体制下の国鉄」で自分だけがセクト的に生き残ろうとしていることは明白です。

全国の動労組合員のみなさん。第三六回全国大会を期して、「本部」反動分子の屈服と裏切りの路線に断を下し、「五五・一〇」の闘いに決起しようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！